

# シオンの子

第 33 号  
2014.11.30



平成26年度 NTT東日本群馬支店児童画コンクール 小学1年 女兒

## 将来の夢

小学六年女兒

私の将来の夢は、プロバスケット選手。私がバスケットに興味を持ち始めたのは三年の時だった。休み時間にバスケットをしている友達が出来た。友達が出来た。

「一緒にバスケットしよう」

私は、それがきっかけでバスケットに興味を持ち始めた。そして私は友達と一緒にバスケットをした。私はまったくできなかった。嫌になった。もししたら友達と一緒に練習して教えてくれた。それも一つのきっかけになった。バスケットには友情と言葉もつくことが。私は、次の日バスケットをやった。転んだ。友達が、「大丈夫？」

と言ってくれた。うれしかった。それはサッカーでもあった。それがきっかけでだれか転んでいたら声をかけるようになった。もう一つのきっかけは、六年生のときだった。バスケットをした。みんなやっていた。私のチームはすごくうまくいった。

次の日、バスケットをやった。私のチームは、一人できない子がいた。チームの一人がいなくても良かった。チームの仲間が必要で大切だと。

私は将来に向けてなにをすれば良いのか考えた。私は思った。まず、一つは相手に優しく接すること。二つは目は、転んでいたら声をかける、それを大切にしようと思った。

平成25年度子持山学園

「詩・作文コンクール」より

「金力ネ・お金」  
生かすも  
無くすも人次第

社会福祉法人

子持山福祉会

理事長 島田 卓爾

大学の入学式における学  
長の式辞のひとつ。ま。

厳しい選抜を経てめでた  
く入学を許された諸君に大  
いなる希望と期待を寄せ、  
心から祝福する。諸君らは  
総べて、相当の学力を備え  
て入学してきたものであつ  
て、学力以外の力によつて  
入学を許されたものは誰も  
居ない筈だ。もつとも数億  
円の「金」を積んで願ひ出  
れば、入学を許可するかも  
知れない  
と親御さん達に堂々と語り  
かけた人とはいまは亡き高  
名の哲学者で元文部大臣・  
旧制一高（いまの東京大）  
校長を経て、学習院大学長  
安部能成先生だったのであ  
る。勿論冗談だと知りつつ  
も、緊張して聴き入ってい  
た入学生たちの心を解した

こともまた事実である。  
終戦後、宮内省管轄から  
離れ一私立大学として独立  
経営を余儀なくされた大学  
の運営は、「金」の必要性  
を誰かに語りたくなり頼り  
たくなることもまた事実で  
あつて、苦難の途を辿る日  
夜であつたらうと想像でき  
る。

話はかわつて、古来「政  
治と力ネ」の問題が問われ  
久しいが全く説明が問われ  
ずにつつと続く。確かに人  
を使つて、人を動員し、人  
が動かなければ選挙は戦え  
ない。選挙に勝たなければ  
政治の舵（かじ）は握れな  
い。となれば、人を動かし  
て、人の欲得を擽（くすぐ）  
る代物は何かといえ、そ  
れは「力ネ」であり、「カ  
ネ」が全くない人はずい  
てゆかない。「カネ」は便  
利なもの、政治との縁は絶  
対に切れることのない仲良  
し夫婦である。  
さて、わが子持山学園は  
社会福祉法人として公的支  
援を受け成り立っているが  
基本的には国民の税金であ  
る「お金」によつて運営さ  
れている。「お金」の大切  
さ、公私の別を弁（わきま）

えることを職員も園児に教  
育し、自ら「お金」に関す  
る事故等絶対に避けなけれ  
ばならない。私の夢かも知  
れないが、いま億の「お金」  
があれば、八十人の職員・  
園児が一堂に会して、晴雨  
関係なく行事や体育、音楽  
演劇等々、知・徳・体を育  
み伸ばしてゆける施設を整  
備していききたいと念じてい  
る。

運命は  
変えられる

児童養護施設

子持山学園

施設長 豊田 誠

京都の全養協大会で、京  
セラ名誉会長の稲盛和夫氏  
の「人は何のために生きる  
のか」という講演がありま  
した。稲盛氏は児童養護施  
設を運営されていて、入所  
する子どもたちが勉強やス  
ポーツに取り組む様子を嬉  
しそうに語りました。また、  
中国の故事の中の話も紹介

されました。ある人が子ど  
もの時、仙人が家に来て、  
「あなたの人生はこうなる」  
と予言しました。本当に仙  
人が予言した通りになり、  
地方の長官になりました。  
その地方の有名なお寺のお  
坊さんに自分の運命を語り、  
何の不安もないと言つと、  
お坊さんに「大バカ者！」  
と大喝されました。自分の  
運命は自分の行動や想いで  
切り開いていくものであり、  
運命だからといって何も考  
えず行動しないのは人生を  
捨てるようなものだと言さ  
れたとのことです。その後、  
その人は子どもがもてない  
ということも、死ぬと言わ  
れていた年齢も全て仙人の  
予言と違う人生を生きたと  
いうことです。

「人は善いことを想い、  
善い行いをするので魂を  
みがき、そのことこそが生  
きる目的だ」と話されまし  
た。また、「運命と因果の  
法則」について、物事を行  
うときに損か得かで判断す  
るのではなく、「人として  
正しいかどうか」で判  
断することの大切さを話さ  
れました。心が洗われる思  
いになりました。

先日、「嫌われる勇氣」  
というアドラー心理学の本  
に出会いました。「人は変  
わることができる」。たと  
え過去がどんなであろうと  
も、そのことが原因で今の  
自分があるのではなく、今  
の自分の境遇は、自分が決  
め選んだ結果なのです。過  
去や他人のせいにしてないで  
自分の人生は自分で決定し  
ていくものだと言っており、  
稲盛氏と共通していると思  
いました。

大会三日目のシンポジウ  
ムで村瀬嘉代子氏は、「児  
童養護施設の職員の専門性  
は、子どもの日常を丁寧  
におくれるように支援するこ  
と」と発言され、その通り  
だと思いました。多くの人  
の善意や協力、支援を受け、  
学園は子どもたちの夢や希  
望、自立に向けて頑張つて  
います。小規模化、地域化、  
家庭的養護に向かつて改革  
は進んでいます。皆様の温  
かい支援に感謝します。





子どもの養育を考える

第14回 統括主任 太田 優子

日常生活を送ること

社会的養護を担う児童養護施設の小規模化に伴い「あたり前の生活をあたり前に送ること」という言葉を耳にすることが多くなりました。

「あたり前の生活」と言われてもすぐに答えが出る人がいっただのくらしいるのでしょうか。いろいろな価値観の中で特に意識することなく過ごしていると言つのが現状なのでしょうか。

多様な価値観の中で、子どもたちと共に暮らし「これが普通の暮らし」と伝えていくには、職員同士の意志の疎通や共通理解が大切になっていきます。

朝起きて朝食をとりそれぞれが年齢にあった仕事（学校や幼稚園、職場や家の仕事をする）。そこで朝食はパンなのか、米飯なのか。社会の動きを知るためにニュースを見てもよいのか食事中のマナーとしてテレビを消すのか。「あたり前の生活」はどちらなのか職員は迷ってしまつ。皆外に出ればストレスで一

杯です。宿題を忘れて叱られたり、お手伝いをして褒められたり、お友だちと上手に遊べたり、ケンカしたり良いことも悪いことも起こります。そんなストレスをカバンに詰めて帰ってくるのです。ホームに戻って甘えたい時もひとりになりたい時もあると思います。そんな子どもたちを六人抱え、それぞれの状態に合わせ心をくわだいていきながら、明日の準備や食事、入浴等を済ませていかなければならないのです。

子どもを中心に子どもに合わせた生活こそ「あたり前の普通の生活」なのかもしれせん。

ホームで「あなたがいて幸せ」「あなたに出会えてよかった」という気持ちで子どもたちと暮らすことで子どもたちはよい人間関係を体験することができ、羽ばたいていけるのではないのでしょうか。

私たちができることは「あなたが大好き」という言葉を子どもに伝え続ける事もしれません。



学園を支えてくれる『ひと』

子持山学園で学習ボランティアを始めてもうすぐ二年になります。初めは私も緊張しながら学園へ向かっていましたが、今では週に一度、学園へ行く日を楽しみにしています。

子どもたちは明るく、思いやりもあり、とても素直な子どもたちです。私が頂いている一時間は子どもたちの勉強を見ることに留まらず、学校生活や子どもたちの趣味について聞ける楽しい時間です。時には私の悩みまで聞いてくれる頼もしい子たちで、彼女たちの成長を学習ボランティアを通して見守れたことを嬉しく思います。

さらに、子持山学園とこのような形で交流をもてたことを大変嬉しく思います。未熟な私をいつも温かく迎えて下さることに感謝の気持ちでいっぱいです。笑顔で子どもたちと楽しそうに接している先生方からは温かな包容力を感じます。これからも子持山学園の皆さまから多くのことを学ばせてもらいつつ、関わらせて頂きたいです。どうぞよろしくお願致します。

群馬大学医学部一年

福本 亜美



**わかばホーム担当**

柳井 朋子

わかばホームは小学三年  
 高校三年までの男子八名  
 で生活しています。  
 入職以来、「嫌なことが  
 あっても帰ってきたらホッ  
 とできるホームを作りたく  
 と思っていますが、「まっ  
 たく、ともねえは…」と子  
 どもたちに言われながら助  
 けられ支えられ励まされて  
 いるのは私の方なんだと  
 感じながら一緒に毎日を過  
 ごしています。  
 中学三年のNは、のんび  
 り屋で相撲が大好きな男の  
 子です。力士の名前から部  
 屋の名前、出身地…Nに聞  
 けば何でも分かっています。

ます。そんな影響もあり、

わかばホームでは食事の時  
 に「今日も白鵬かつたね。  
 逸ノ城は強いね」など、相  
 撲の話が出ることも少な  
 くありません。週末に一緒  
 におやつを購入に出掛けた  
 り、塾の送迎の車中で車の  
 ことや相撲のことなど他愛  
 もない話をする時間が、私  
 にとつて癒やしの時間になっ  
 ています。性格はのんびり  
 しているNですが足が速く、  
 中学最後の大会で百m走11  
 秒台という校内記録を塗り  
 替える記録を樹立しました。  
 選抜リレーにも選ばれアン  
 カーを務めたり、クラス対  
 抗のリレーでも大活躍し、  
 自信になった様子です。今  
 は陸上の強い高校を受験す  
 るか、陸上はあきらめて元々  
 行きたいと思っていた高校  
 を受験するか悩んでいます。  
 人生最初の選択。どんな答  
 えを出しても、全力で支え  
 ていきたいと思っています。  
 逸ノ城のような大飛躍を信  
 じて…。

**めぐみホーム担当**  
 石坂 隼一



今年の四月より新任職員  
 としてホーム配属になり八ヶ  
 月が経ちました。めぐみホー  
 ムは高校生三人、中学生一  
 人、小学生三人、幼稚園児  
 一人、計八人の子どもたち  
 がいます。幼稚園児の子は、  
 九月に入所しました。慣れ  
 ない環境の中でも頑張っ  
 ていると思います。私自身  
 も四月当初に比べ、子ども  
 たちと話ができるようになっ  
 たと思います。  
 学園に就職してみて、沢  
 山の行事があることに驚き  
 ました。子どもたちの集い  
 やドッジボール大会、ホー  
 ム旅行など、子どもたちと  
 協力し合っつても貴重な  
 体験ができました。そして、  
 行事などに取りくむ子ども  
 たちの姿から、成長を感じ

ることが多々あります。

しかし、楽しいことばか  
 りではありません。子ども  
 と意見が合わないこともあ  
 ります。話し合いをしたり  
 距離を置いて、解決でき  
 ない問題は沢山あります。  
 なので、子どもの気持ちを  
 理解し、分かりやすい言葉  
 で話をしなければなりません。  
 そのおかげで、子ども  
 と一緒に自分も成長できて  
 いるのだと思うのです。

高校三年のお兄ちゃん  
 は 大学受験を控えています。  
 毎日、学校が終わってから  
 夜遅くまで予備校で勉強し  
 ています。大変な思いをし  
 て、自分の将来に向かつて  
 頑張っています。高校生に  
 なったばかりのお兄ちゃん  
 も勉強と部活を両立させて  
 頑張っています。そんなしつ  
 かり者のお兄ちゃんたちに  
 支えられ、小さな子たちも  
 すくすくと成長しています。  
 私も私のできることを精  
 一杯、そして長い目で子ど  
 もと共に生きていける大人  
 でありたいと思っています。

**事務担当**

中澤 和美



子持山学園に勤め始めて  
 早いもので、今年で九年目  
 になりました。最初の頃は  
 仕事を覚えるのが大変でし  
 たが、日々子どもたちの笑  
 顔に励まされ、ここまで頑  
 張って来られました。普段  
 直接子どもたちと接する機  
 会は少ないけれど、事務所  
 で仕事をしていると、学校  
 から「ただいま」と元氣  
 に帰ってくる声が聞こえて  
 きたり、時々事務所にかわ  
 いいお客さんが遊びに来て  
 くれたり、そんな時、事務  
 所の雰囲気が一気に和みま  
 す。長期のお休みは、時々  
 仕事が中断になってしまう  
 事もあります。にぎやか  
 で楽しいです。  
 子持山学園では一つのホー  
 ムに五人〜八人の子どもが  
 一緒に生活をしています。

# かがやく星たち...

そうなんです！大家族です。朝の登校時間と帰宅後の夕方が特に忙しく、若い職員が目回るような忙しさの中でがんばっています。私たちは子どもたちが卒園して、社会で自立していけるように手助けをするのが仕事です。子どもたちが成長していく過程で対応が難しい時期があり、保育士や指導員は苦労も多いと思いますが、自立して、立派な社会人になった先輩たちが元氣な姿を見せに来てくれる時は、この上ない喜びを感じます。

また、事務仕事をしていると、子持山学園はほんとにたくさんの方々に支えていただいている事がよくわかります。みなさんからの温かい心を支えに、これからも協力しながら、子ども

たちのためにがんばって行けたらと思います。これからも見守っていただけると嬉しいですよ。

## 浅田ホーム担当

### 鈴木まつみ

今この原稿を書いている私の横には、子どもたちと飾り付けをしたクリスマスツリーのライトが点滅しています。そう年末です。大人になってからは一年がとて早くも過ぎた。そしてそれは年々加速しているように思える。

年の初めには毎年目標をたてているが、ここ三年はまったく同じ目標。そう、まったく同じ目標。そう、達成できていないのです。一年があつという間なのだから仕方ないと（自分に甘い私は）納得し、おそろく来年も同じ目標になるだろう。

そんな変わらぬ私の横で子どもたちの成長は目覚ましい。まず目に見えてわかるのは身長。昨年買った服

がもう小さい。ツンツルテンになりつつある袖や裾を見ると年明けまでには買い替えなくてはと、する事リストに追加。

知識もすごい。ゲームやアニメについては次々に新しい事を覚えていって、話している内容が宇宙人レベルに訳が分からない事がある。勉強だつて一年間で百字以上の漢字を習ってくる（最近パソコンでしか文章を作らない私は次々と漢字を忘れているから、対照的だ）。

二年生の子は今かけ算を習っている。人より覚えるのが遅いようだが大丈夫だろう。一年前は指を使つてもたし算ができなかったが、いつの間にか出来るようになっていた。個人差はあつても子どもはどんどん新しい事を吸収して成長する。心配はない。一年後にはかけ算は出来るだろう。そして割り算や図形問題の宿題に頭を抱えているのだ。

そんな子どもたちを眺めながら、七年後くらいには新しい目標にバージョンアップ

プできる自分になりたいと思う鈴木でした。皆さん二〇一五年がよい年でありますように。

## ほし・ひかりホーム担当

### 星野 采香

四月より新任職員として学園で子どもたちと生活するようになり半年が過ぎました。ほしホーム五人、ひかりホーム五人、計十人の個性豊かな女の子たちと毎日楽しく過ごしています。半年が経ち少しずつ慣れ始め、忙しく感じていた毎日でも最近では落ち着いて過ごすことができるようになりました。初めは一つのホームに入るといふことで、雰囲気の違いやホームの小さな決まり事の違いなどに戸惑うことが多くありました。どうしたら良いのか戸惑う私を助けてくれたのは子どもたちでした。「こうするんだよ。」「次はこれするんだよ。」「優しく教えてくれる子どもたちは、小さ

くも私にとっては大きな存在でした。ほしホームは、甘えん坊でくつき虫のメンバーがそろっています。甘えん坊な子がいたため、けんかも多くなりますが元氣いっぱい声がいつもホームに響いています。ひかりホームは、マイペースで頑張り屋さんのメンバーがそろっています。朝早い時一人起きてご飯やお弁当を作る中高生の姿はとて頼もしく立派です。十人も優しい心の持ち主で、みんなの顔を見て声を聞くととても安心します。みんなが私の支えであり、頑張る理由になっています。

「おはよう」から始まり「おやすみ」で終わる一日を大切に過ごしていきたいと思っています。まだまだ未熟な私ですが、これから沢山の思い出を作り子どもと一緒に成長していきたいと思っています。

# 活動報告

平成26年5月～平成26年11月

- ・子持山学園「子どもの日の集い」
- ・教会ヒクニック
- ・群養協ドッジボール大会
- ・渋川教会ホルンコンサート
- ・山田昇財団自然教室
- ・Westler観戦招待
- ・県ALT交流会
- ・レクリエーション(ドッジボール、長縄)
- ・J.R東勢組様招待
- ・映画上映会、ボーリング招待、文化祭
- ・ソフトボール大会、旅のプレゼント
- ・夏休み
- ・各ホーム旅行、アイス作り体験、
- ・地域育成会行事(お祭り、納涼祭等)
- ・渋川教会キャンプ、学園納涼祭
- ・お弁当コンクール、お泊まり保育など
- ・群馬県児童養護施設連絡協議会
- ・調理実習、ソフトボール大会
- ・ミニサッカー大会
- ・性教育講演会
- ・サマーコンサート
- ・(セレモニーサポート彩様)ご奉仕)
- ・自治会ファミリー運動会
- ・群馬ダイヤモンドベガサス招待
- ・芋ほり・栗拾いへ(篠原様)ご奉仕)
- ・子持地区体育祭
- ・小政寿司様ご奉仕
- ・軽井沢おもちゃ王国招待
- ・鯉沢育成会旅行
- ・七五三児童祝福式
- ・カットボランティア
- ・(理容生活同業組合、小澤様)
- ・渋川教会秋の特別音楽礼拝、収穫感謝祭
- ・渋川チャイルドゆめフェスティバル
- ・資生堂自立支援セミナー
- ・学園カラオケ大会
- ・(第一興商 河村様)ご奉仕)
- ・その他、多数の招待、奇贈等に感謝。

平成二六年十一月入所児童状況

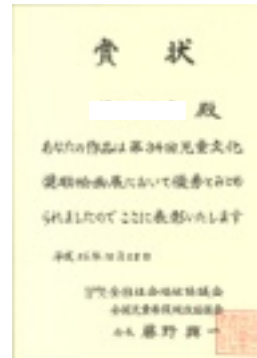
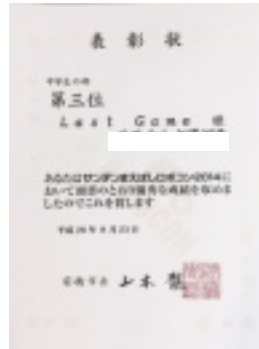
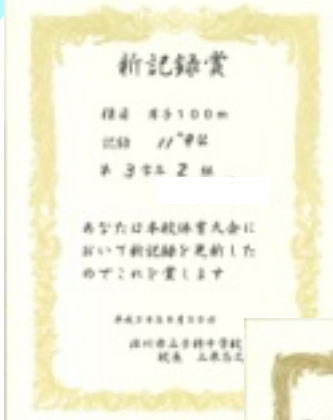
- ・ 幼児 五名
- ・ 小学生 一七名
- ・ 中学生 一七名
- ・ 高校生 一七名

計五十名

いろんな分野で  
活躍しています!!



渋川北群馬防火ポスター  
優秀賞  
中学1年女児





小舎制研究会発足の経過

発足の胎動  
小舎制養護を实践している養護施設の有志により研究活動の希望が出され、昭和五四年の全国養護施設長研究協議会徳島大会の期間中、一堂に集い話し合いを持った結果、毎年の全養大会の前後に会をもつてはこの意見が出る。

会の発足

第三四回全国養護施設長研究協議会岐阜大会が終了した、昭和五五年九月二六日午後二時より名古屋市の愛知産業貿易会館に二五施設養護施設二四、情緒障害児短期治療施設一(三二名が集い協議をもつた。参加者は小舎制養護を实践している施設や小舎制養護に関心をもつ個人等であった。

小舎制研究会 養育研究所発行

「養育研究第一号」より

子持山学園は、以前は長屋形式の小舎型の施設だった。小舎制に関心があったため参加している。この研究会に子持山学園は今日まで参加し続けている。

第36回 小舎制養育研究会に参加して  
のぞみ・わかばグループ 保育士 飯島 梓

先日、第三六回目の研修が、福島県棚倉町で行われた。今回の研修では「小舎制養育の原点とは」が主題になっており、旭児童ホーム(当会会長)の伊達直利さんより「原点」について再考し、これからの養育について問題提起として基調講演していただいた。小舎制養育を实践している堀川愛生園が平成二四年度に本園四ホームとグループホームを改築し、その前後の様子や、改築までのプロセスについての実践報告を拝聴した。

各分科会に分かれて小舎制養育の現状や実践報告、小規模化に向けた取り組みや課題などについて話し合いを行った。私が参加した分科会(小舎制養育の実践報告)では家庭養護促進協議会の岩崎美枝子さんからの助言を頂き、それぞれの施設が抱える問題や現在、実践していることを互いにシェアし合った。

長年勤められる職場環境や人材確保、施設への住み込み、小規模ホームの孤立感・応援体制、職員間の共通認識・コミュニケーションの取り方などが上がった。多くの施設がこの分科会に参加し、いろいろな角度からの意見が出た。人材確保として結婚イコール退職ではなく、長年務めてこられた事やその中で得た

ものを、子どもや新しい人材に伝えていけるよう現場から少し離れたサポート側にまわって続けてもらう、負担の大きい住み込みをやめ、全員通勤という勤務形態をとっている施設もあるなど、そういった考え方もあると勉強になった。子持山学園を

顧みると、新任、中堅職員が多い中で、職員同士の話し合いの時間や共有する場が少なく、子どもへの処遇や家事で手一杯になつてしまっているのも現実である。新任の職員がブラザーシスターという経験二、三年目の年が近い職員に相談相手となつてもらえることで、とても助けられたという話を分科会で聞いた。施設内研修として園外からSV(スーパバイザー)を呼び、コミュニケーション能力を高めるところもあるという。

また、共通言語を施設で考え、例えば「愛着」その言葉一つでも職員によって捉え方が違う為、こういう位置付けにしているという話し合いを持ち、言葉を作っているところもある。これらを通して言えるのは「共感し合える人間関係、全体で支える環境」が大切だと言うこと。職員が共通認識を持ち、万全の態勢でなければ子どもたちに安心感のあ

る、あたりまえの生活を提供することは難しい。どうすれば職員同士が同じ方向を見て支援していけるのか、私自身の今後の課題になってきた。

現在、子持山学園は小規模化に移行するようワーキンググループにて協議を行い、話を進めている。以前と比べ、食堂で一同に頂いていた食事もそれぞれのホームにて配膳し、より家庭的になってきている。さらに小口現金の導入、各ホームでの全調理も視野に入れ検討している。

小規模化の意味する事や、なにより子どもへのケアを職員間で意思疎通を図り、子持山学園として今後の展望、方向性をどうしていくのか、明確な方針を掲げる必要性を改めて感じている。どのようにしたら職員が同じ方向を向いて足並みをそろえられるのか、考察中であるが、小舎制として求めるもの、なにより一人一人の子どもに対して今まで以上に質の高い関わりが持てるよう、慎重に進めていきたいと思う。



お心遣いに感謝致します

(14・5)・(14・11) 敬称略・順不同

寄付金

中村光孝 狩谷智治、(有)春山商店 小川麻奈美、小島昭 旭石材工業(株) 石北医院 飯塚寛巳、石関幸利、長谷川要、大類博史、竹之内久子、長島真 須田勝治 鈴木彩乃、齋藤貴、小野寺三郎、清水トミ、藤井孝子、石原貴雄、石田和男、布施英俊、樋口照信、岡田郁之助、矢内晋作、中野順夫、木村久子、高橋美奈子、ピノキオ絵画教室(島田昌子)、須藤いつみ、佐藤宏美、佐藤勇、酒井広治、豊田町子、宮下智満、長谷川要、島田卓爾、鯉沢自治会、山口道子、大嶺真勝、埴田昭三、孔文社印刷、石坂恒一、石原正巳、渋川教会、子どもの教会、飯島克一、木暮和子、島村美也子、ミート屋野、佐藤隆夫、原澤重子、秋山賢司、木村三都子、鯉沢郵便局・斉藤しのぶ、小山成、松田次男、三愛荘、太田翔平、地行園、中澤文子、高山均、群馬県社会福祉協議会会長・下城茂雄、春日園、渋川中央ライオンズクラブ、新島短期大学、陸川恭太・千絵、日本善行会群馬県北毛支部、渋川市社会福祉協議会子持支所(松村正市)、群馬県遊技業協同組合 野田幸二、小澤健治、赤城地区更生保護女性会、太田直子、大塚康夫、子持地区更生保護女性会、伊達直子、関野、渋川地区更生保護女性会、小沢肉店、石井久子、構手商店、日本キリスト教団群馬地区婦人部、桜井もと子、田代鮎子、匿名の方

他多数の各位

寄贈物品

武藤孝夫 星野義夫、佐藤洋司、(株)南澤建設、(株)カトーフエスタハラダ、JR東労組高崎地本、(株)コロボレシオン(山崎健一)、綿貫澄夫、町田勝次、石井キミ、小野真実夫、小全静枝、藤井正雄、田子守久、山本美津子、高橋さみ江、芝Hof、URINKA、カルピ、(株)東日本事業本部、伊之内邦江、Silver Stone、田鍋友美、佐藤勝、伊藤悦子、和田敏秀、柿沼弘之、吉田まさ子、群馬県医薬品卸協同組合、和木晴奈、中澤達雄、日本善行会群馬県支部、並木なつ江、糸谷常平、五十嵐研介、竹之内邦江、(株)エイロ・スタジオ、(株)モリカバ、志村和子、原澤みよ、野村政美、釘島総合法律事務所、小沢二一、遠藤和男、池田歩、麻友香、カゴメ(株) 堺商店、飯塚勝彦、丹羽裕、コストコ前橋倉庫店、堀川愛生園、村田薫、大井圭子、榎半俊夫、飯塚克昌、メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン、湯浅純子、匿名の方

他多数の各位

掲示板

・苦情解決報告 計0件 (平成二六年四月〜平成二六年二月)

☆ご支援・ご招待等々 ありがとうございます。心から感謝しております。

県共同募金会様「NHK歳末たすけあい」普通自動車免許取得のため三名の高校生が一人二十万円の支援(配分)を受けます。県民の皆様のご善意に感謝します。

West-one様

大相撲前橋場所招待、プロレス観戦招待。

JR東労組様

東日本大震災復興支援映画上映会招待、ボーリング大会、ソフトボール大会招待、「旅のプレゼント」上野動物園へ招待。

(株)アベックス様

新しい履員、お手軽鍋他を沢山頂きました。

山田昇記念財団様

「赤城自然園」へ自然体験招待。ツリーイング、自然観察など盛り沢山!!

鈴木せい子様(群馬県助産師会会長)

「生きてるだけで百点満点」性教育講演会

セレモニースポーツ彩様

毎年恒例「サマーコンサート」

ボランティア

児童交流 須藤いつみ、ベトナムサジ、林弘子、書道 山口道子、大塚康夫、絵画教室 ピノキオ絵画教室、学習 群馬県青年赤十字奉仕団 横澤香、小池歩、福本亜美、田村祥央、ピアノ 鈴木音楽教室(渋川市)、カントリーボラ 群馬県理容生活衛生同業組合、小澤あさみ

(株)KANSAI様

お好み焼き屋さんへの招待。

小政館様

園内での本格握り寿司のご奉仕。

日本塗装工業会群馬県支部様

11月16日(いいいろの日)食堂他塗装ボラ。

第一興商様(河村様)

園内でカラオケ大会 みんなで大さわぎ!!

軽井沢おもちゃ王国様

無料招待。毎年楽しませて頂いています。

楽天CSR部様

園庭での「いどつとしゃかん」ご奉仕。児童全員にクリスマスプレゼント!!

(株)ユー・東京様

学習アス、プロジェクトの整備。

日本善行会群馬県北毛支部様

ゴルフコンペ寄付金(ハーベキュー台購入)お餅つきのご奉仕。

高崎和ライオンズクラブ様

七五三写真撮影のご奉仕。

NPOスターズ様

高校生、自立支援・メキヤップ講座。

県内ALITの皆様

他国の方々と異文化交流。(七回目)

群馬県児童養護施設連絡協議会や県等に寄付・寄贈を頂き、県内の各施設に配分されました。

皆さまの温かなお心遣いが子どもたちに届いております。(以下、お名前のみ紹介します)

多くの匿名の皆様

高崎和田ライオンズクラブ様

コストコ前橋倉庫店様

Si-Market様

椿孝治様

お米、洋服、野菜、果物、子どもとの触れ合い、励まし、寄付等々、大勢の皆さまの温かな善意の上に私たちの生活が成り立っております。今後とも宜しくお願ひ申し上げます。

北極星

この冬、新しいことにチャレンジします!『スキー』とか『スノーボード』と公言出来れば格好良いですが、私の場合将棋です。きっかけは、将棋がマイブームのS君。二年前に出会った頃には、にこにこ笑いながら口数が少なく自己主張が苦手だった男児です。ある日、「先生、将棋出来る?」と誘われましたが、私は未経験。S君に教えてもらいながら進めました。すると私の駒を逆から見ると「これは「金」で取れるよ。」と動かし方を教えてくれたり、ヒントをくれたり。終盤にさしかかると、「ここで僕、先生の王将取っちゃおうよ。」でも、まだ時間あるからいいよ!」と手加減して見せたのです。普段おとなしく見えるS君が、こんなふうに関心の立場に立ち、思いやれることに触れ、彼の心の充実ぶりを感ずることが出来ました。子どもも思いますが、我々職員を映し出す鏡だと思えます。私も、子どもたちとの交流の手段を増やし、気持ちの通ったかわり合いを心掛けたいです。(田中朋子)



事務所と玄関がとってもきれいになりました!

